

2011年12月25日

RSNA2011(第97回北米放射線学会)が開催、「各社の主な”テーマ”」

米国シカゴのマコーミックプレイスを会場に、RSNA2011(第97回北米放射線学会)が11月27日～12月2日まで開催された。

放射線医学の学会としては世界最大の規模を誇り、今年は、The Mount Sinai Medical CenterのBurton P. Drayer, M.D.が大会長を務めました。

今回、各社の主なテーマは……

GE Healthcare (GE)

“Technology for healthier lives”をメインテーマに、そしてサブテーマに“Working together for healthier lives”を掲げて展示を行った。現在 GE Healthcare は、グローバル戦略として“healthymagination”(ヘルシーマジネーション)を推進している。

また、GE ヘルスケア・ジャパンとしては、“In Japan for Global(IJFG)”というコンセプトのもと、日本のユーザーのニーズに合わせた製品を開発し、日本発として世界市場へ展開を狙う。

Siemens (シーメンス)

今年までのテーマ“Images, my way”をさらに進めて、“Images, leading the way”として展示を行った。syngo.via をすべてのモダリティの中核と位置づけて、あらゆるモダリティを統合し、syngo.via を中心に販売していく体制に変えていくことをメッセージとして発信した。

Philips Healthcare(フィリップ)

昨年に引き続き“Imaging 2 .0(イメージング・トゥー・ドット・オー)”をテーマに掲げ展示を行った。また、サブテーマとして“Sharing your vision. Advancing the science.”を掲げて、ユーザーとビジョンを共有し、それに基づいて今後の開発や技術の追究を進めていくという姿勢を示した。

Toshiba Medical Systems(東芝メディカルシステムズ)

“A Focused Perspective”をテーマに掲げて展示を行った。

各モダリティ(CT, MRI, 超音波診断装置, X線撮影装置)とも米国で新発売となる製品が展示された。

HITACHI Medical Corp(日立メディコ、日立アロカメディカル)

“Embracing Life through Innovation”。いのちを慈しむ(Embracing Life)という医療の原点を見つめ、最新の画像診断技術の提供を通じて新しい可能性(Innovation)を追究するというメッ

セージを含めた。日立アロカメディカルも、超音波診断装置を展開。

Shimazu(島津)

“Experience SHIMADZU”。このテーマは、米国において、これまで同社の製品を使用したことがない顧客への提案が可能となり、来場者に島津製品を体感してもらいたいとの思いが込められている。

また、医療機器ごとに評価を行っている米国の第三者評価機関“KLAS”のランキングで、一般撮影装置の第1位に3年連続で島津製品が選ばれ、さらに回診用X線撮影装置の"Category LEADER"にも島津製品が選出されて、ダブル受賞となった。

FUJIFILM Medical Systems(富士フイルム)

“At FUJIFILM, Images are Life”として、画像技術を生かして、その中で付加価値を提供するさまざまな製品、ソリューションを展示した。

以上